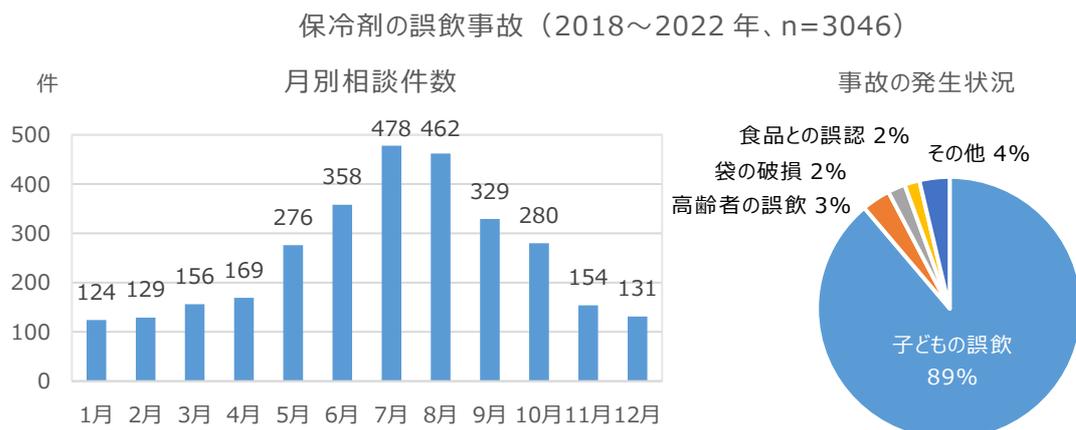


## 保冷剤の誤飲事故に注意しましょう！

暑くなり、保冷剤を使用する機会が増えると、日本中毒情報センター中毒110番への問い合わせが増加します。



以下のような問い合わせがあります。

- 「暑いので、子どもに保冷剤を持たせていたところ、袋をかじって出てきた中身を食べた。」
- 「認知症のある高齢者が、ソフトタイプの保冷枕を破って中身をたくさん食べた。」
- 「弁当箱に添えた保冷剤の袋が破れており、保冷剤の付着に気づかず弁当を食べた。」
- 「保冷剤をゼリーと思い食べた。」「ケーキに添付された保冷剤をソースと思いかけて食べた。」

保冷剤には、食品の鮮度保持などに使用する冷凍庫でカチカチに凍るタイプと、身体の冷却、弁当やボトルの持ち歩きなどに繰り返し使用できる冷凍してもカチカチに凍らないソフトタイプがあり、商品によって成分が異なります。ソフトタイプの製品を誤飲すると、成分や摂取量によっては意識障害などの重篤な症状が出現する場合がありますため、注意が必要です。

●保冷剤を使用する際は以下の点に注意しましょう。

- ・ 小さな子どもに保冷剤を使用する場合、手に持ったり、かじったりしていないか注意する。
- ・ 認知症の高齢者に保冷剤を使用する際は、周囲の人が事故防止に気を配る。
- ・ 保冷剤の使用に際し、袋（外装）の破損がないか確認する。

事故が発生し、受診すべきか判断に迷った場合は中毒110番にご相談ください。

可能であれば、商品名、カチカチに凍らないソフトタイプの製品か、カチカチに凍る製品か確認ください。  
公益財団法人日本中毒情報センター 中毒110番電話サービス（一般向け 365日 24時間対応）

- 大阪中毒110番 072-727-2499
- つくば中毒110番 029-852-9999

本資料を引用又は使用して資料作成・報道等を企図される場合は、必ず事前にその内容について日本中毒情報センター（本部事務局 電話：029-856-3566）の承諾を得、「公益財団法人 日本中毒情報センターの調査による」旨明記して下さい。